<table>
<tr><td rowspan="3">講義タイトル</td><td rowspan="3">ラオスの母子保健の現状</td><td>学科名</td><td>臨床検査学科</td></tr>
<tr><td>講師名</td><td>楾清美／准教授</td></tr>
<tr><td>専　門</td><td>病理検査学
国際保健学</td></tr>
<tr><td colspan="4">概　要</td></tr>
<tr><td colspan="4">ラオスの国を知っていますか？

ラオスは、中国、ベトナム、カンボジア、タイ、ミャンマーに国境を接した、インドシナ半島の中部に位置している内陸国です。ラオスは、国際連合が定めている後発開発途上国（LDC : Least Developed Country）の 1 つですが、近年、ラオスの経済発展は目覚ましく、7%以上の経済成長率を保っています。著しい経済発展がみられる反面、保健医療レベルは ASEAN 諸国の中でも特に低く、早急な保健・医療分野における改善が求められています。

ラオスでは、子供が 1000 人生まれた場合、生後 28 日以内に亡くなってしまう子供は 29 人(日本:1 人)、満 1 歳までに亡くなってしまう子供は 49 人（日本：2 人）もいます。妊娠・出産関連で亡くなってしまう女性は、10 万人中 197 人（日本：5 人）と報告されています。

なぜ、ラオスではこのような状況が起こってしまうのでしょうか？

本講義では、ラオスでの青年海外協力隊活動や NPO 職員として関わった母子保健改善活動を事例としてあげ、ラオスの母子保健の現状を紹介します。</td></tr>
</table>